

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670101476
法人名	有限会社深町コーポレーション
事業所名	グループホームはなみずき
訪問調査日	平成 19 年 6 月 8 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	670101476		
法人名	有限会社深町コーポレーション		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地 (電話番号)	山形市深町一丁目9番14号 (電 話) 023-644-2777		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年6月8日	評価確定日	平成19年8月10日

【情報提供票より】(平成19年5月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 28 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17 人, 非常勤	人, 常勤換算 14.5 人

(2)建物概要

建物形態	○併設／単独		○新築／改築
建物構造	木造 造り 西（一部 2階建ての 1階部分） 南（平屋建て）		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有／○無
食材料費	朝食	280 円	昼食 320 円
	夕食	320 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81.1 歳	最低 56 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	前田クリニック、奥山内科胃腸科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は日々の業務の振り返りと利用者の話を受け入れることを通して、利用者一人ひとりが思い思いに、その人にとってあたりまえの生活を送ることができるようにしてきており、利用者一人ひとりの希望や意見を介護計画に盛り込みながら、尊厳と自尊心に配慮したサービス提供に努めています。また、玄関、廊下、食堂、居間などの共有空間と各居室の個人空間には、季節の草花や装飾、鑑賞魚、利用者の思い出の品物などがあり、どこにいても居心地よく、ほっとできる空間に包まれた「家」です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議の意見も聞きながら、ホーム運営理念の共有および啓発の具体的方法、地域の社会資源へ働きかけの具体的方法についての検討を進めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価の意義を管理者は職員に説明し、全員で取り組み、その結果を順次改善策へ反映して、支援内容の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議で出されたアドバイスを受けながら、サービスの改善に活かし、サービスの質の向上を目指している。また、市町村との連携を図れる場面が今まではなかったが、より質の高いサービス提供を進めていくためにも、市町村との情報交換や意見交換などを通して、ホームと市町村との連携が可能な内容や範囲についても検討してみることが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、不満、苦情には管理者や職員が随時対応し、利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理の情報は、定期的、個別に家族に報告されているが、職員異動の報告までは行われていなかったため、職員の異動があった場合についても、情報の受け手である家族等の立場に立った、わかりやすいお知らせやタイミングよい報告についても取り組んでみることを望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自体が新興住宅地のため地域活動などの交流が難しい面もあるが、町内の特別会員として町内の清掃活動への参加・子供神輿への寄付等の実施をしたり町内会への働きかけを積極的に行っており、近所の住人が時々ホームに来てお茶を一緒に楽しむこともある。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、地域密着型サービスの意義を確認し、全員でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新職員には、理念について管理者より話をしたり、常に振り返りができるように個々のケースファイルに理念を貼り付け支援の基にしている。ケアプランやミーティングなどで、統一したケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自体が新興住宅地のため地域活動などの交流が難しい面もあるが、町内の特別会員として町内の清掃活動への参加・子供神輿への寄付等の実施をしたり町内会への働きかけを積極的に行っており、近所の住人が時々ホームに来てお茶を一緒に楽しむこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を管理者は職員に説明し、全員で取り組み、その結果を順次改善策へ反映して、支援内容の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出されたアドバイスを受けながら、サービスの改善に活かし、サービスの質の向上を目指している。		

山形県 グループホームはなみずき

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携を図れる場面が今まではなかった。	○	より質の高いサービス提供を進めていくためにも、市町村との情報交換や意見交換などを通して、ホームと市町村との連携が可能な内容や範囲について検討してみることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶり・健康状態(随時)・金銭管理(月1回)家族に定期及び個々にあわせて報告しているが、職員異動の報告についての報告はまだなされていない。	○	職員の異動があった場合についても、情報の受け手である家族等の視点に立って、わかりやすくお知らせや報告がなされることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情は管理者や職員へ報告して随時対応し、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージに配慮し、職員の適性、能力、人数等を検討しながら、異動は最小限に押さえ、実務にあわせて対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にも職員の参加がみられ、研修報告の閲覧もできるようにしているが、計画的な研修実施までには至っていない。	○	年間の研修計画をも念頭に置きながら、できるだけ多くの職員が事業所内外の必要な研修により参加できる工夫が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで構成される連絡会への参加、県内のグループホーム連絡協議会への参加、交換実習の実施など、同業者との交流やネットワークも活用しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩という気持ちを持ちながら、共に生活するという意識で協働しており、日常的な場面での思いを共有しながら支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族との情報交換も密に行いながら、また、利用者の動作・表情から、一人ひとりの思いに対する気づきを深めながら、職員は一人ひとりを尊重するケアを提供している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望をよく聞き、その人らしい生活が継続できるよう話し合いを実施し、それぞれの意見が反映されるよう多面的に検討しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回はモニタリングを実施し、本人・家族・必要な関係者と話し合いを持ちながら、状況や変化に応じた介護計画の変更や立案を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	事前面接の際に本人と家族の希望を確認し、利用前 のかかりつけ医との関係も大切にすようにしており、 通院は家族または職員が支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	「重度化・看取りに関する指針」をホームで独自に作成 し、利用の際の説明やその後の話し合いを通し、本人 や家族の思いにも配慮しながら全員で方針を共有して いる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉か けや対応をしないよう、常に職員は注意し合いながら、 プライバシー保護や個人の尊厳確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望にあわせ、無理強いや押し付けはせずに、 毎日を自分のペースで過ごせるよう支援している。		

山形県 グループホームはなみずき

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューへのリクエストを取りながら、職員と利用者が一緒に、楽しい雰囲気ですることができるように配慮している。また、盛り付け、後片付け、食器洗い、食器拭きを利用者と職員で分担しながら、できることはしてもらうようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態や季節に合わせ、ほぼ毎日入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	メリハリのある生活が送られるよう、家事・花植えなど得意なことを活かした支援をしている。また、手作り弁当を持ってドライブへ出かけたり、庭から草花を摘んでは花瓶に生けたりしながら、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーに食材を買いに行ったり、近隣を散策する機会を設け、日常的に戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	利用者の状況に応じ、出かけた方へは気づかれないうちに付き添い、疲れた頃合いを見計らってさりげなく声かけし、ホームに一緒に戻れるよう支援しており、玄関に鍵はかけないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域との話し合いにより避難場所も決まっており、避難訓練も実施されている。		

山形県 グループホームはなみずき

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量などを個別チェック表に記入して職員間で共有し、利用者一人ひとりにあった摂取量の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所と居間がつながっており、開放感と生活感の両方を感じる空間になっており、また、堀コタツ・風鈴などの季節感のあるもの、馴染み深いものも置いて、落ち着いてくつろげる居心地のよい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品物、箆箆などの家具、馴染みの小物や趣味の品々などを置いたり使ったりしながら、居心地よく自分らしく過ごせるようにしている。		